

令和 元年 6 月 19 日現在

機関番号：30122

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04728

研究課題名（和文）聴覚障害児の言語活動を充実させる看図アプローチを用いた教材開発・授業開発

研究課題名（英文）Development of class and learning materials with Kanzu approach that enhance language activities of deaf children

研究代表者

鹿内 信善（Shikanai, Nobuyoshi）

天使大学・看護栄養学部・教授

研究者番号：20121387

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：看図アプローチは「見ること」を重視した授業づくりの方法である。聴覚障害児にとって「見ること」は、言語学習のための重要なメディアとなる。聴覚特別支援学校には、言語能力を育成するために「自立活動」の時間が設けられている。本研究では、看図アプローチを活用した、年間を通して行う「自立活動」プログラムを完成させた。また、看図アプローチを活用した「国語」の授業モデルもつくった。看図アプローチ授業を行うためには、絵や写真などのビジュアルテキストが必要である。本研究では、聴覚特別支援学校で活用可能なビジュアルテキストも大量に制作した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

聴覚特別支援学校では「自立活動」の時間が設けられている。これは言語活動を主としたコミュニケーション能力の育成にあてられる時間である。しかし今回フィールドとした学校では、明確な方針をもった「自立活動」の指導がなされていなかった。そこで、本研究によって、看図アプローチを導入した「自立活動」の指導プログラムを構成した。また看図アプローチを活用した言語活動を充実させる教科授業モデルも構成した。

研究成果の概要（英文）：“Kanzu” approach is a way of lesson planning which focuses on “seeing” things. For children with hearing impairments, “seeing” can be an important source for learning languages. Special needs education schools for the deaf provide their students with a class of “independent activities” to help them improve their language proficiency. This research provides an annual curriculum for “independent activities” which were designed using “Kanzu” approach. This research also provides a number of lesson models of Japanese that is applicable in schools for children with hearing impairments. To carry out a “Kanzu” approach lesson, visual texts such as pictures and photos would be needed. This research also provides a lot of visual texts that are good for practical use at special needs education schools for the deaf.

研究分野：教科教育学

キーワード：聴覚特別支援学校 言語活動 看図アプローチ 教材開発 授業開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

鹿内は、中国の看図作文に心理学や物語論の研究成果を取り入れ「新しい看図作文」を開発してきた。この研究から次のような成果が生まれてきた。「読み解き活動を創発するビジュアルテキストの制作方法、ビジュアルテキストを読み解く処理モデルの構成、読み解き処理モデルを活用した授業づくりの方法、ビジュアルリテラシーを育成する授業モデルの構築等々。」これらの成果を、授業づくり全般に適用していくことを「看図アプローチ」とよんでいる(鹿内 2013)。「看図アプローチ」は「見ること」を取り入れた授業づくりの方法である。「見ること」は聴覚に障害をもった子どもたちの言語活動を支援する重要なメディアとなる。研究開始当初、看図アプローチ研究は、聴覚障害児の言語教育に提供できるノウハウやコンテンツを一定程度準備できていた。

「聴覚障害教育における世界的な一つの流れとしてバイリンガル・アプローチという新たな教育方法が実践されている。(阿部 2014,p.29)」日本でのバイリンガル・アプローチは一般的には次のような形をとっている。「まず日本手話を獲得させ、それを基盤として書記日本語を教える(座主 2010,p.245)」。しかしバイリンガル・アプローチによって「十分な書記日本語力や学力が身につけられているのかについては日本ではまだ明確な研究結果などは出ておらず、明らかでない面がある。(座主 2010,p.245)」日本の聾教育は、日本手話と日本語を併用するというバイリンガル・アプローチにはたどり着いている。しかし、バイリンガル・アプローチによってどのようにして日本語能力を向上させていくか、その方法の研究はほとんどなされていない。例えば斉藤(2015)は、次のように述べている。「現在まで、聴覚障害者の書記日本語の実用的運用能力の改善を目指すための教授法や教材は、日本においては、開発されてこなかった。(p.173)」以上が、研究開始当初の、聴覚障害教育におけるバイリンガル・アプローチの日本の現況であった。

2. 研究の目的

聴覚特別支援が必要な児童生徒の言語活動を充実させる、教材開発・授業開発を行う。

3. 研究の方法

ビジュアルテキストの読解は、協同学習を活性化させる。鹿内が見出したこの知見を聴覚特別支援が必要な児童生徒の言語活動を充実させる教材開発・授業開発に役立てる。この目的を達成するために以下の研究を行う。これまで開発してきた看図作文授業モデルを聾学校用にアレンジする。読み解きを創発する「曖昧・空所・対立・問題状況」を備えた聾教育に適したビジュアルテキストを作成する。これらのビジュアルテキストを活用し言語活動を充実させるための各教科授業モデルや「自立活動」指導プログラムを構成する。

4. 研究成果

看図アプローチは「見ること」を重視した授業づくりの方法である。聴覚障害児にとって「見ること」は、言語学習のための重要なメディアとなる。聴覚特別支援学校には、言語能力を育成するために「自立活動」の時間が設けられている。しかし、本研究のフィールドのひとつとなったF校では、言語能力を育成するための時間として「自立活動」の指導が機能していなかった。本研究では、看図アプローチを活用した、年間を通して行う「自立活動」プログラムを完成させた。また、看図アプローチを活用した、聴覚特別支援学校における「国語」の授業モデルもつくった。

聴覚特別支援学校の数は少ない。さらに、在籍する学生数も少ない。このため、聴覚特別支援学校のみをフィールドにしているだけでは、指導プログラムや授業モデルの十分な開発はできない。そこで、通常学校(看護学校を含む)をフィールドにして、聴覚特別支援学校に提供する指導プログラムや授業モデルを数多くつくった。

看図アプローチ授業を行うためには、絵や写真などのビジュアルテキストが必要である。本研究では、聴覚特別支援学校で活用可能なビジュアルテキストも大量に制作した。これらのビジュアルテキストを活用した、聴覚特別支援学校での授業づくり研究は、科研費助成が終了後も継続して行っている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 11 件)

- 1) 「看図アプローチが導く主体的学び」(単著) 『主体的学び』4号 pp.3-17 東信堂、2016
- 2) 「看護学の教育課程に適合した看図アプローチによる授業づくり」(共著) 『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第2号 pp.1-12、2016
- 3) 「聾学校乳幼児相談室における日本手話話者による親子支援」(共著) 『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第2号 pp.47-52、2016
- 4) 「聾学校小学部での看図作文の実践:日本手話を活用した日本語指導」(共著) 『福岡女学院大学大学院紀要人間関係学部編』第18号 pp.99-109、2017
- 5) 「看図作文授業レパトリーの構成」(共著) 『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第3号 pp.41-49、2017

- 6) 「看図アプローチを活用したキャリア教育プログラム構成の試み」(共著)『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第4号 pp.15-22, 2017
- 7) 「動物園を教育資源とした『総合的な学習の時間』授業づくりの予備的検討—看図アプローチを用いて—」(共著)『福岡女学院大学紀要人間関係学部編』第19号 pp.1-6, 2018
- 8) 「聴覚特別支援学校における看図アプローチを活用した授業づくり()—F校に対する看図アプローチの紹介活動—」(単著)『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第5号 pp.1-7, 2018
- 9) 「聴覚特別支援学校における看図アプローチを活用した授業づくり()—F校における看図アプローチの受容と実践—」(単著)『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第5号 pp.9-16, 2018
- 10) 「『看図アプローチ』を用いた教育プログラム作成」(共著)『日本動物園水族館教育研究会誌』第25巻 pp.87-92, 2018
- 11) 「看図作文授業レパトリの構成(2)『問題-解決』構造をもった作文を書かせるための絵図の作成」(共著)『中村学園大学発達支援センター研究紀要』(10) pp.67-78, 2019

〔学会発表〕(計12件)

- 1) 「アクティブラーニングを成立させるための看図アプローチ」日本協同教育学会第13回大会, 2016
- 2) 「聾学校小学部での看図作文を導入した協同学習」日本協同教育学会第13回大会, 2016
- 3) 「反転授業・ジグソー学習にも役立つ看図アプローチ 小児看護学での授業実践」日本協同教育学会第13回大会, 2016
- 4) 「看図アプローチ協同学習のつくり方 看護学校・保幼小中高大・聴覚特別支援学校での活用」(共著)『日本協同教育学会第14回大会要旨集録』pp.132-133, 2017
- 5) 「看護学実習への看図アプローチの活用 保育所実習での実践」(共著)『日本協同教育学会第14回大会要旨集録』pp.142-143, 2017
- 6) 「大会企画ワークショップ『看図アプローチ』」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』p.8, 2018
- 7) 「動物園を教育資源とした保育園における『看図アプローチ』実践」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.46-47, 2018
- 8) 「看図アプローチを活用した学習動機づけの促進 看護基礎教育『疾病論』授業実践」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.48-49, 2018
- 9) 「聴覚特別支援学校で言語活動を充実させるための看図アプローチ」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.124-125, 2018
- 10) 「中国における看図作文授業の改善 日,中教育比較を通して」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.126-127, 2018
- 11) 「看図アプローチを用いた主体的な学習の動機づけ」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.128-129, 2018
- 12) 「看図を導入したLBPの効果」(共著)『日本協同教育学会第15回大会要旨集録』pp.130-131, 2018

〔図書〕(計2件)

- 1) 「看図アプローチによる授業づくり」(単著)『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』明治図書, pp.99-106, 2016
- 2) 「協同学習と看図アプローチ」(単著)『日本の協同学習』ナカニシヤ出版(印刷中)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：

取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等(なし)

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:(なし)

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：田中瑞穂・増谷梓・手塚清貴・渡辺聡・森寛・石田ゆき・中野康子・天野秀紀

ローマ字氏名：Tanaka Mizuho・Masutani Azusa・Tezuka Kiyotaka・Watanabe Satoshi・Mori Hiroshi・Ishida Yuki・Nakano Yasuko・Amano Hidenori

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。